



**小松** 一つは幼保連携型の認定こども園「津みどりの森こども園」です。今まで別々だった幼児教育と保育をうまく融合しながら、未就学児と保護者にいろいろなサービスを提供する一つの例かと思います。

もう一つは、4月に開校した義務教育学校「みさとの丘学園」ですね。単に小学校と中学校が同じ敷地にあるだけではなく、複数の小学校が統合され、9年間の一貫した教育プログラムが展開されるということもあって、新しい地域のつながりを生み出すような拠点になっていくことを期待しています。

**市長** さて、先ほど紹介した公共施設の総合管理計画ですが、公民館、出張所、放課後児童クラブについては、施設の種類ごとに「施設整備指針」として考え方を整理しました。一身田公民館、一身田出張所は、よりコンパクトに建て替えるとか、放課後児童クラブは、未設置校区に建てていくなどといったことを平成29年度当初予算に盛り込みました。必要な施設は造っていかねばならないのですが、計画を進める際には、横の連携をしっかりと取っていかねばならないと考えています。

**小松** その際は、地域を俯瞰する<sup>ふかん</sup>というか、地図

を広げて考えてほしいと思います。20世紀は成長と開発の時代で、公共施設は都市の成長を支えるために一定水準の施設を素早く供給することが重視されました。成熟社会といわれる今は、既存施設をそれぞれの状況と地域の特性に合わせて再編・集約する、つまり21世紀は、「成長・開発」から「再編・集約」に転換する時期なのです。

また今後、市民の方には、単に利用者として要望を出すだけではなく、計画や運営に参画していくパートナーであることが求められてくるでしょう。つまり、これからの公共施設は、行政から一方的に与えられるものではなく、一緒に造り上げていくものかということですね。そういう認識をぜひ持っていただきたい。

その際、どうしてもヘビーユーザーの意見が大きくなりがちです。「サイレントマジョリティー」という言葉がありますが、今使っていない人のもっとこうなったら使いたいという意見をくみ上げることが、次の公共施設を考えるヒントになるのではないかと常々思っています。

## 開発と成長の時代から 再編と集約の社会へ…

**市長** 今いくつか重要なご指摘をいただきました。一つは、市民参加。市民と一緒に運営していくことで公共施設を次の

時代らしいものにしていくこと。

もう一つは、財政上持続可能な状態、しっかり管理できる範囲内で公共施設を提供していくこと。施設が老朽化した場合に、今までのサイズでそのまま建て替えていくことは、将来の負担を考えると難しい。今はたまたま合併特例事業債など有利な財政措置があるので活用していますが、今後はさらに考え抜いて、賢く造り、運営していくことが必要ですね。

**小松** これから実現するにあたっては、プロセスのデザインが非常に大事です。どうやって市民の声を拾い上げ、議論し、合意形成するのか。これはかなり時間がかかりますし、そこに関わる人たちの当事者意識も必要です。共に創ると書いて「共創」といいますが、そういう雰囲気



4月1日に開校した義務教育学校「みさとの丘学園」